11月の広布史　創価学会創立記念日

『創価教育学体系』の発刊

11月18日は、創価学会創立記念日です。1930（昭和５）年のこの日、初代会長牧口常三郎先生の著書『創価教育学体系』の第１巻が発刊されました。

牧口先生は、1871（明治４）年6月6日、現在の新潟県柏崎市に生まれ、北海道で教員となり、以後、教育者の道を歩みました。

1928（昭和３）年、57歳のとき大きな転機が訪れます。日蓮大聖人の仏法との出会いでした。長年求め続けた、全民衆の幸福を目指す人間主義の哲学に触れた牧口先生は、自分がこれまで書きためてきた教育理論を、今こそ体系化しようと決意します。

学会創立当初の牧口先生と戸田先生

師と弟子ふたりだけの出発

牧口先生が自らの決意を真っ先に語ったのは、愛弟子である後の第二代会長戸田城聖先生に対してでした。

1930（昭和５）年２月のある夜、思いを聞かされた弟子は、師の教育学説は自分が出版しようと決意します。「先生の教育学は何が目的ですか」「価値を創造することだ」「では先生、創価教育と決めましょう」

こうして、牧口先生の教育学説は「創価教育学」と名づけられました。弟子は、牧口先生が書きためた膨大なメモを整理する作業と、出版資金の捻出を、一手に引き受けました。

同年に発刊された『創価教育学体系』第１巻の奥付には「著作者・牧口常三郎　発行兼印刷者・戸田城外（※注）　発行所　創価教育学会」とあります。

1930（昭和５）年11月18日。『創価教育学体系』第１巻の出版の日が、師と弟子たったふたりの「創価教育学会」の出発でした。これが現在の創価学会が創立された歴史的な日となったのです。

（※戸田先生は、戦後、「城聖」と改名する以前に「城外」と名乗っていました）

● コラム

初代会長牧口先生、殉教の日

11月18日は、初代会長牧口先生の命日でもあります。

戦争に突き進む日本の軍部政府は、昭和10年代後半から、本格的に思想の統制に乗り出し、やがて、国家神道を全国民に強制するという暴挙に出ます。

牧口先生は、これに真っ向から抵抗。各地で活発に座談会を開催し、軍国思想を堂々と批判し、仏法の正義を説き続けたのです。迫害は必至でした。特高警察は、1943（昭和18）年７月６日、牧口先生・戸田先生をはじめとする創価教育学会の幹部21人を治安維持法違反・不敬罪の容疑で逮捕、投獄したのです。

真冬に暖房もない極寒の独房、栄養失調になるほどのわずかな食事、連日の厳しい取調べ――それでも牧口先生は、信念を曲げることなく、不屈の闘争を貫きます。しかし、牢獄での過酷な日々は、70歳を超えていた牧口先生の体を確実にむしばんでいきました。

1944（昭和19）年10月13日付で獄中から家族にあてた手紙。「三障四魔が紛起するのは当然で、経文通りです」との、信仰への確信にあふれた言葉が、牧口先生の絶筆となりました。１月後の、11月18日。牧口先生は獄中で亡くなります。73歳でした。

多くの宗教者や思想家が、迫害に屈して軍国主義を賛美した暗い時代にあって、牧口先生が貫いた不屈の“精神”は、いまなお、不滅の光を放っています。

● 参考資料

・『人間革命』
　第１巻「一人立つ」
　第２巻「序曲」
・『新・人間革命』
　第２巻「勇舞」
　第３巻「平和の光」
　第７巻「文化の華」
　第12巻「栄光」
　第27巻「正義」
・『牧口常三郎 獄中の闘い』
　宮田幸一著　第三文明社
・『国家主義と闘った牧口常三郎』
　村尾行一著
　第三文明社レグルス文庫
・『創価教育の源流 牧口常三郎』
　潮出版社 Pumpkin visual books